

社会福祉法人葵会 2020年度評価書・・・評価者：法人役員

A:達成 B:ほぼ達成 C:未達成 D:該当なし

1.運営		総合評価 B	
項目	評価項目	評価	概要
地域貢献事業		評価 B	
法人	(1)地域活性化のための支援活動		
	・相談窓口の周知 ・地域住民のニーズ調査	C	・地区社協の活動計画ではニーズ調査を行う事となっていたが、コロナウイルスの影響で次年度に繰り越される。調査内容から法人の活動を探る。 ・戸別訪問ができなくなったので適宜電話で様子を伺う。内容を包括支援センターや民生委員と共有し各団体の活動と結びつけることが数件できた。
	・地域各団体の事務局活動 地区社協・郷土をよくする会・S型デイサービス	B	・郷土をよくする会の活動はコロナウイルスの影響で中止となった。 ・地区社協の活動もほとんどなかった。 ・連合町内会の印刷物の手配等は従来通り行った。
	・関係団体との協力活動 各小中学校・保健センター・警察等	A	・地域各団体や保健福祉センター・児童相談所・行政等と協力体制が整い、問題が発生した場合は速やかに対応をとっている。 ・小学校との連携は公開授業・公開保育等を通して幼児期から小学校低学年までのステップアップが緩やかに進めるよう教職員の意識が変化してきた。年度後半には教員が年長児を小学校へ招いて学校体験を企画実施してくれた。
	(2)介護予防活動		
	・健康体操実施	D	・健康体操は新型コロナウイルスの影響で中止となった。参加していた人々に適宜電話をかけ様子を聞き取ってきた。外出の機会が少なくなり寂しさを募らせている方が多かった。
・S型デイサービスへの支援活動	A	・新型コロナウイルスの影響で実施回数は少なかった。その中でも会場の提供や参加者の送迎を行いシニアサポーターが活躍するようになり法人としての運営支援は少なくなっている。	
こども園	保育の充実		評価 A
	・環境設定	A	・園児の状況に応じた環境設定を心掛け、こども達が集中して遊ぶことができるようになってきた。 ・コロナウイルス対策のためにこどもたちの活動が制限されることのないようパーテーション使用やマスク着用等環境を適宜検討しながら整えることができた。
	・幼児教育	B	・こどもへの対応は丁寧にとどの職員も関わる事ができた。 ・年長児の成長は著しく、年間の活動を通して自信をもたせることができた。 ・教育的配慮については保育者の意識統一が難しく個人レベルで進めた
	・乳児保育	A	・担当制をとることで落ち着いた雰囲気の中で保育を行った。 ・2歳児は少人数での活動や食事の個別対応をしたことで、個々の発達を例年以上に支援することができた。
	・食育	A	・少人数で食育活動に取り組んだのでこども達の理解が深まった。 ・栽培から収穫・調理までを子どもたち自らが全て行うことで食べ物への愛着や食べることへの感謝の気持ちが育まれている。 ・クッキングを通して年長児は料理の手順や方法などに興味を持ち、家庭での助言等も励みになり食への関心が深まった。

項目	評価項目	評価	概要
支援センター	地域へ向けての支援活動	評価 B	
	・ 出産後家庭訪問	D	・ コロナウイルスの影響で活動は中止した
	・ 学童保育の充実	B	・ 様々な体験ができるよう活動内容を充実することができた。
	・ 活動内容の充実	D	・ コロナウイルスの影響で活動は中止した
デイサービス	活動の定着	評価 B	
	・ 利用者が自主的に活動する	C	・ 利用者が自主的に活動できるようなデイリーを組み立てるために検討を繰り返し昨年度後半でようやく確立してきた。しかしコロナウイルスの影響で施設内で行動範囲が限定され自主的な活動が制限された。次年度は原点に戻り確立したものを実行していきたい
	・ 子どもたちとの交流	B	・ 毎月の誕生会を一緒に行う事で利用者も園児も期待を持つようになった。幼児・職員がマスク・フェイスシールドを着用することで実施。 ・ 室内での交流はできなくなったが、園庭ではさりげない触れ合いが続いている。幼児のマスク着用と互いの手洗い、消毒を徹底することで実施
	・ 目標を理解するための研修	B	・ 施設内研修を通して利用者の理解や接し方、職員としての行動規律等が浸透してきた。またケース検討等で各職員の発言を引き出すことで利用者に対する多面的な見方なども出てきた。

法人職員	職員の充実	評価 B	
	・ 複合施設としての研修の充実	B	・ コロナウイルスの影響で園児と利用者担当部以外の職員が関わる機会が少なくなっている。基本事項について共有を図ってきたが研修内容を互いに実践して学びを深めることができなかった。 ・ しかしヒヤリハット・事故報告等を共有することでリスクについては知識として学んでいる。
	・ 業務省力化への取り組み	A	・ 平日も土曜勤務時もフリー番を職員体制に組み込むことで記録等の時間を確保することができた。残業がほとんどなくなった。 ・ コロナウイルス対策として消毒や清掃作業が増加していたが年度後半から清掃専用の職員を雇用することで職員の作業を軽減することができた。
	・ 選択できる勤務時間	A	・ 家庭の状況等にあわせ、短時間勤務・6時間勤務・短時間から8時間勤務へ変更するなど雇用形態を選択できる環境が整っている。
2.経営		総合評価 B	
法人全体	・ デイサービス事業の安定	B	・ 年度ごとの運営ができるようになってきた。しかしデイサービスの運営目標を達成するためには職員数が基準より多く必要となるために人件費を抑えることができない。
	・ 園児の確保	C	・ 幼児の定員変更が認可されたが、人数はやはり減少傾向にある。 ・ ホームページのリニューアルをしたが成果にはなっていない。 ・ 次年度は更にInstagram等を取り入れ広く広報活動を行う。
	・ 職員処遇改善	A	・ 処遇改善費を配分することで賃金の底上げができている。 ・ 主任・リーダー等役割を明確化することで職場意識の向上を図っている。 ・ コロナ対策として特別休暇制度を設け給与等の補償をおこなった。
3.評価及び改善		総合評価 A	
法人全体	・ 要望調査と改善	A	・ 保護者や利用者からの要望に対しては迅速に誠意をもって対応できた。
	・ 職員自己評価と園の自己評価	A	・ 保育教諭、調理員、介護職員等それぞれの専門についての自己評価を行うことで振り返りと次年度への目標設定を行った。
	・ 苦情に対する対応と改善	A	・ 苦情については随時対応し、内容をホームページで公表してきた。 ・ 理事会にて報告し、また必要な場合は地域通信を発行してきた。